

第1回美濃加茂市総合計画審議会議事録

1【日時】 平成31年1月31日(木) 19:00~21:00

2【場所】 美濃加茂市生涯学習センター203号室

3【出席者】

(1) 議会委員：海道会長、杉山副会長、高木委員、糸賀委員、今村委員、澤田委員、鈴木委員、深貝委員、安藤委員、鹿野委員、藤井委員、佐合委員、渡邊(博栄)委員、福田委員、岩本委員、西田委員、久保田委員、渡邊(明日香)委員

(19名中18名出席)

(2) 業務委託先：株式会社ぎょうせい2名

(3) 市長部局：市長、経営企画部長、企画課長、その他企画課3名

4【概要】

(1) 市長あいさつ

(2) 委員委嘱 委嘱状の交付

(3) 定足数の確認 過半数を超えているため会は成立することを確認

(4) 会長の選出 委員の互選により、海道氏を委員会会長に選出

(5) 会長あいさつ 海道会長から、委員会会長就任におけるあいさつ

(6) 副会長の選出 会長の推薦により、杉山氏を委員会副会長に選出

(7) 副会長あいさつ 杉山副会長から、委員会副会長就任におけるあいさつ

(8) 諮問 市長から会長へ諮問書を手交(別紙)

(9) 市長から総合計画策定にあたっての説明

(10) 報告事項

第5次総合計画振り返り結果、市民意向調査結果、市民ワークショップ結果及び審議会スケジュールについて事務局から説明があった。委員から出された主な意見は、以下のとおり。

(○印=委員意見、 →印=事務局回答 以下同じ)

○5次総振り返り結果について、「紐づかない」とあるがどういった意味なのか。

→当初の設定した目標と実際に行っている事業との関連性を検証した結果、目標に向かって行っている事業がないということである。

○市民意向調査について、住みやすい、住みにくいと回答している人について何をもちってそのような回答になったのか分かるといい。まちづくり協議会等に情報提供することで地域で活動している人の参考になると思う。

→今回の資料は概要版のため後日HP等で詳細なアンケート結果を出していく。まちづくり協議会へも情報提供していきたい。

○成果目標の達成率が良くないが、総合的な点数は高いように見えるがどのような関連性でやっているのか。また、最終的な評価は0か100で判断するのではなく色々

な評価方法を検討した方がいい。

→最終年度でそれに近い数値がでてくる見込みの評価になっている。

(11) 審議事項

計画の構成、将来ビジョン・重要政策について事務局から説明があった。委員から出された主な意見は、以下のとおり。

○社会変化が激しい時代に柔軟な体制で臨むというチャレンジングな姿勢は評価できる。課題が出たときに柔軟に変更するような体制であればよいが、10年間を担保できるKPIの設定は困難であることから総合計画の必要性については疑問もある。

○KPIを設定するのであれば、行政が管理する視点（アウトプット）ではなく市民側の感じる視点（アウトカム）であるべき。

○SDGsを取り入れ計画との整合性を取る必要がある。

○新計画は人口が減らないように、定住していくような施策が必要になる。

○女性のシニア世代の方が、空き寺等を利用したコミュニティを開いている例もありそういったことが女性活躍に繋がっていくと思う。

○今の子供たちが10年、20年後に美濃加茂市に住んで子育てしやすい環境ができていような計画になればいいと思う。また、定住自立圏の視点からも美濃加茂市は加茂圏域で医療・福祉の中心となってほしい。

○計画概要を見る限り方向性がはっきりしていないと感じる。今の時代尖った政策が必要。企業の人手不足は大きな問題であり入管法の改正で労働者として外国人の流入が起こった時に備え行政としてどう迎え入れる体制を整えておくか大切と感じる。

○地域で老人を大事にする、小学生中学生を巻き込んでこれからのコミュニティ形成を行っていかねばいけないと感じている。

○多文化共生の中でも今後の課題として移民の流入にどう対応していくかが課題であり受け入れる体制を市民と一緒に考えていく必要がある。

○尖った部分も大事だが、弱者に対しての“やさしさ”であったり、“温かさ”といった部分も感じられる計画になってほしい。

○健康に着目した計画で「人間」という表現をしているが、「人」に着目した計画にする手法もあると思う。また「社会」という括りをしているが、そこは「地域」として自治会の推進施策に強く結びつくような計画にしてほしい。

○消防団員は、自治会の代表としてやっている。自治会加入率の低下に歯止めをかけた加入率を上げていくような施策をとらないといけない。消防団独自の活動も行っているが市としても取り組んでほしい。

○美濃加茂市を離れ外で生活していた目から見ても住みやすいまちだと思う。アンケート調査でも住みやすいという結果が出ているが、その人たちが住み続けてくれることが大切。健康というのは与えられるものではなく、自分で努力して得るものだと思うので、与えられるだけでなく、市民が自発的に参加してくるような施策が必要だと思う。

○農家の高齢化が進み、担い手不足で農地の保全が難しくなっている。健康というキーワードがある中で、健康と農業を結びつける視点も今後必要になると思う。耕作放棄地を有効活用すれば農地保全に繋がり、農地の健康に結びつくと思う。

○北部地域の切り捨てにならないような計画にしてほしい。

○市内には、ショートステイの預け先がなく親亡き後も子供が安心して暮らしている体制が必要だと思っている。誰にでも障がいということは起こる可能性があり特別な事ではない。誰もが幸せだと感じられる市であってほしい。

○若者視点から見ると、計画案には若者の意見が反映されておらず高齢者中心の計画になっているのではないか。若者が市から離れていく理由があるはずで、もっと若者に目線を向けてほしい。

○多文化共生についても意識が低いと感じる。市として取り組んでいると思うが、もっと突出した施策を出していけば人も集まってくると思う。

○外国人の観点から見ると、何が分からないのかが分からないとなっていることが問題で、外国人は美濃加茂市で生活することについて深く考えていない。日本人には当たり前でも、外国人にとっては当たり前ではないことがお互いを理解できない原因になっていると思う。

○（自分が）結婚するとなった場合、美濃加茂に住み続けるには、婿養子をもらうなどその後の生活を考えても難しい部分があり悔しいと思う。美濃加茂の良いところを自分の子供には伝えることが今の美濃加茂では難しいと感じている。

○KPIについて、防災士の資格取得助成等をしているが、防災士になった人の数よりも、その防災士がどのような活動をしたかの指標であるべき。また、目標が変化しやすいものを設定することは避けた方がいい。

○10年先に男女等のジェンダーがどうなっているのか難しさを感じている。お互いの気持ちを汲んだ、もう一つ脱皮した男女共同にも着目してやっていきたいと思う。

→KPIについては、5次総の反省も踏まえ10年間の社会の変化に柔軟に対応できるようにしていく。総合計画では、大まかな方向性を管理する指標とし設定数も少なくする。個々の事業については、56本の個別計画の中で進捗管理し二重管理とならないようなシンプルな体制とする。設定についてもアウトカムの視点で市民満足をどうとらえていくかなども含め検討していきたい。

SDGsについては、自治体に課せられた義務として総合計画に盛り込んでいく。

圏域のリーダーとしての役割については、32年度から定住自立圏第3次共生ビジョンが始めることもあり圏域の活力を維持していくため引き続き取り組んでいく。

キャッチコピーについては、ありきたりのものではなく、市民の皆さんが関心を持ち、そこから議論が巻き起こるよう引き続き検討していく。

自治会加入率、消防団員の確保は、自治の基本であることから、みんなで作るまち、みんなが参加するまちを実現するための取り組んでいく。

若者委員会や地域活性化スクールなど市独自で若者主体の活動をしているが、投

票率をはじめ若者の社会参加はまだまだ不十分な状況である。若者が、自分たちの未来は自分達で築いていくのだと思い活動していく美濃加茂市にしていきたいし、そのための情報発信していく。

言葉をたくさん並べて読んでください、ではなく目で見てわかるような計画にしていきたい。

(12) 会長によるまとめ

全方位的なものにとられず、特徴を持った計画にという意見が多かったと思う。また、声が届きにくいところについては十分な意見聴取ができていないという意見も多かった。事務局で検討していただく必要がある。KPI 設定についても、柔軟に対応できる体制づくりや、本当に市民にとって意味のある目標設定が必要である。

5 【今後の予定】

次回開催日は、平成 31 年 2 月 28 日（木）19：00～21：00 とした。

以上